

# わずか1年で驚異的な飛躍を遂げているatamata

atamaplus株式会社は、AIで最短ルートの学びを提供するatamataを展開している。2017年の創業からわずか1年で、大手塾を中心に導入が加速している。どのようなコンセプトのもとに製品が開発され、どのような未来を見据えているのか、代表取締役の稲田大輔氏に話を聞いた。

## AIX人X場がカギ

「AIで、一人ひとりに、最短で『わかる』を。」というスローガンのもとに開発された「atamata」。生徒一人ひとりの「得意」「苦手」「伸び」「つまずき」「集中状態」「忘却度」といった状態をすべてAIが分析し、最短ルートの学びを提供するのが大きな魅力だ。わかる子はさらに先へ、わからない子はつまずいた根本から学ぶことができ、全員で同じ黒板を見る授業では不可能だった、一人ひとりに寄り添う学習が実現している。「3時間トイレにも行かず熱中する子がいる」と代表

取締役の稲田大輔氏が言うほど、生徒を夢中にさせる。それはAIの力によって、自分でできるギリギリの問題をレコメンドするからにはかならない。

atamataのなかでも「atamataforstudent」は塾生向けのシステムで、Z会エデュースや駿台教育センター、湘南ゼミナール、城南進学研究社、早稲田スクール、全教研など、大手塾での導入が進む。さらに最近では、ティエラコムが全国45箇所の教室で導入した。さらにティエラコムはatamataに特化した人工知能型完全個別指導塾「AIホロン」も開校している。



「atamatafor student」「atamataathome」画面

AIだからといって生徒に渡すつばなしでは決してうまくいくことはなく、「AIX人X場」が重要だと稲田氏は訴える。そのため、先生の替わり、あるいは補助ツールとして考えている場合はうまくいかないだろうと話す。

どのタイミングではじめ、通常授業にどう組み込むのか。同社と塾とがプロジェクトチームを作り、新しいビジネスをはじめめるくらいタッグを組めた場合に大きく効果が表れる。同社は「atamata

## 続々と新サービスをリリース

塾講師向けのシステムが「atamataforcoach」だ。生徒のやる気を引き出すためには適切なタイミングで「褒める」ことが重要だが、atamataforcoachは頑張つて問題を解けた瞬間に褒められるよう、通知機能を搭載している。この機能はすでに特許も取得したとい



代表取締役 稲田大輔氏

う。

また、苦戦している生徒に關してもリアルタイムで状況を把握することが可能。自分なりに考え尽くしたタイミングで教員がアドバイスをすることで、より身につけやすくなる。

さらにこの9月にリリースしたのが、「atamataathome」だ。これはatamataforstudentを使用する生徒一人ひとりのスマートフォンに、最適な宿題を提供す

るアプリ。atamataforstudentとatamataathomeは相互に連携しているため、塾内、塾外での学びが一体となり、さらなる学習の効率化を図ることにつながる。

atamataはこれまで高校数学、中学数学、高校英文法、語法を提供してきたが、この9月には高校生向け物理と化学をリリースした。物理においては、生徒が

学の講義をレコメンドするなど、教科を横断した学習が可能になっているのが大きな特長だ。

## 教育のど真ん中を改革する

atamaplusが実践しているのは、補完教材を作るのではなく、塾と一緒に教育のど真ん中を改革することだ。実際、生徒が使いやすいノートも開発しており、いずれは塾が教育改革に必要なものすべてを開発していくとしている。

同社がこうして、優れた教育サービスを多くの人に届けようと考えているのは、子供に社会でいきる力を身につけてほしいという考えがあるからだ。今は基礎学力を高めるためのサービスのみを提供しているが、将来的には物事の本質を捉えるような、アウト

プットのためのサービスを開発したいとしている。また、映像授業が出はじめの頃は「映像授業とは？」と希有な存在として扱われていたが、今では教育サービスの1つとして確立されている。AIを活用した講座も、いずれは塾での当たり前になるはずと語る稲田氏。そのために、atamataを導入する塾の講座設計の支援や、いかにAIの活用が効果的であるか、保護者に受け入れられるようになるための支援もしていきたい考えだ。

えるど真ん中だと思つていきます。自分の人生を生きる人を増やし、これからの社会をつくっていきたいですね」と意気込む。決してブレることのない筋の通った理念が、教育、ひいては社会を変えていく遠くはないはずだ。

さらに稲田氏は「教育こそが社会を変

